

Tsuyama College		Year	2017		Course Title	英語 I
Course Information						
Course Code	0009		Course Category	General / Compulsory		
Class Format	Lecture		Credits	School Credit: 3		
Department	Department of Integrated Science and Technology Electrical and Electronic Systems Program		Student Grade	1st		
Term	Year-round		Classes per Week	3		
Textbook and/or Teaching Materials	教科書：高島英幸監修・鈴木寿一ほか著 NEW FLAG I（増進堂）・その他：Listening Box PRE（改定版）（啓林館）, 改訂版 英単語VALUE 1000（数研出版）, 予習ノート（教科書専用）, 音声CD, A4サイズのパファイル（2つ穴）, 英和辞典・和英辞典（電子辞書もしくは冊子）					
Instructor	YAMAGUCHI Yumi,YAMAGUCHI Hitoshi					
Course Objectives						
学習目的：4技能（聴き・読み・書き・話す）をバランスよく養成する。						
到達目標： 1・英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができる。 2・高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得しコミュニケーションに利用することができる。 3・英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができる。 4・本文の要旨を英語または日本語でまとめることができる。 ◎ コミュニケーションツールとしての口述、記述、図表などの特徴をあげることができる。						
Rubric						
	優	良	可	不可		
評価項目1	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることが十分できる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることが最低限できる。	英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけ、自分や身近なことについて理解したり伝えたりすることができない。		
評価項目2	高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得しコミュニケーションに利用することが十分できる。	高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得しコミュニケーションに利用することができる。	高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得しコミュニケーションに利用することが最低限できる。	高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文語彙を習得しコミュニケーションに利用することができない。		
評価項目3	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することが十分できる。	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができる。	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することが最低限できる。	英文を正しい区切りやイントネーションで音読することができない。		
評価項目4	本文の要旨を英語または日本語でまとめることが十分できる。	本文の要旨を英語または日本語でまとめることができる。	本文の要旨を英語または日本語でまとめることが最低限できる。	本文の要旨を英語または日本語でまとめることができない。		
評価項目5	コミュニケーションツールとしての口述、記述、図表などの特徴をあげることが十分できる。	コミュニケーションツールとしての口述、記述、図表などの特徴をあげることができる。	コミュニケーションツールとしての口述、記述、図表などの特徴をあげることができる。	コミュニケーションツールとしての口述、記述、図表などの特徴をあげることができない。		
Assigned Department Objectives						
Teaching Method						
Outline	一般・専門の別：一般 学習の分野：英語 必修・必履修・履修・履修選択・選択の別：必履修 基礎となる学問分野：英語学・英米 / 英語圏文学・言語学・音声学					
	学科学習目標との関連：本科目は「①教養豊かな実践的人間力の養成」、「⑤グローバルな視点と社会性の養成」、「⑦コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成」に相当する科目である。					
	技術者教育プログラムとの関連：本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(F) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の育成」であるが、付随的には「(B) 地球的視野に立った人間性の育成」に関与する。					
	授業の概要：検定教科書の様々な分野の英文を用いて、内容理解をおこなったうえで、音読や簡単な作文といったアウトプット（話す・書く）活動を実施する。また、その基盤となるインプット（語彙・文法力）活動を実施する。					
Style	(山口裕) 授業冒頭にリスニングの訓練をおこなう。読解・音読のために、英文の区切りを見つける練習をおこなう。リスニング、読解による内容理解の後、音読練習や要旨作成などの活動をおこなう。 (山口均) 文法を理解した後に、音読によるインテイクや活用演習をペアやグループでおこなう。単語集を用いて、語彙学習をおこなう。					
	成績評価方法：前期中間試験から後期中間試験までは、定期試験の結果を平均して評価する（60％）。定期試験の結果に加え、平素の小テスト・課題・授業ノートなど（40％）を総合して成績評価をおこなう。年度末の成績評価は、後期末試験まで加え、上記の方法で算出された結果を90％に換算し、GTECの結果（リーディング・リスニング）を10％加えて評価する。試験には教科書・ノートの持込みを許可しない。 場合によっては再試験を実施する。積極的に授業に参加すること。					

Notice	履修上の注意：本科目は学年の課程修了のために履修が必須である。			
	履修上のアドバイス：予習・復習・課題を指示するので必ず取り組むこと。GTECを必ず受験すること。			
	基礎科目：中学校での学習事項・英語表現I（1年）			
	関連科目：英語II（2）・英語表現II（2）			
	受講上のアドバイス：積極的に授業に参加すること。講義ならびに音読や英作文の活動は、運用能力向上のための基礎となる。そのため、必ず、教科書・予習ノート・英和辞書・和英辞典を持参し、予習や課題を取り組んだうえで授業に臨むこと。後期中間試験中に実施されるGTECを必ず受験すること。英検などの資格・検定試験を積極的に受験することが望ましい。			
遅刻について：授業開始5分すぎでの入室は欠課扱いとする。				
Course Plan				
			Theme	Goals
1st Semester r	1st Quarter	1st	ガイダンス（予習・復習など学習法の説明，受講上の注意）	年間を通じての学習方法を理解し、学習計画の見通しを立てる。
		2nd	Chapter 1 Part 1	英語でコミュニケーションができる日本の有名なスポーツ選手について書かれた英文が理解できる。 SVO・SVCを理解し、活用する。
		3rd	Chapter 1 Part 2（山口裕美）／電子辞書の使い方（山口均）	英語でコミュニケーションができる日本の有名なスポーツ選手について書かれた英文が理解できる。 現在形・過去形を理解し、活用する。 基本的な電子辞書の使い方を理解する。
		4th	Chapter 1 Part 3	英語でコミュニケーションができる日本の有名なスポーツ選手について書かれた英文が理解できる。 未来の表現を理解し、活用する。
		5th	Chapter 2 Part 1	様々な方法で世界一周に挑戦した冒険家について書かれた英文が理解できる。SVOCを理解し、活用する。
		6th	Chapter 2 Part 2	様々な方法で世界一周に挑戦した冒険家について書かれた英文が理解できる。SVOCを理解し、活用する。
		7th	Chapter 2 Part 3	様々な方法で世界一周に挑戦した冒険家について書かれた英文が理解できる。 不定詞を理解し、活用する。
		8th	前期中間試験	現時点の英語力を確認する。
	2nd Quarter	9th	前期中間試験返却と解説	前期中間試験までの振り返りと今後の学習目標を立てる。
		10th	Chapter 3 Part 1, 2	英語の学習における音読の効果と英語の学び方を知る。 動名詞・that（名詞節）を理解し、活用する。
		11th	Chapter 3 Part 3, 4	英語の学習における音読の効果と英語の学び方を知る。 比較表現・不定詞（副詞用法）を理解し、活用する。
		12th	Chapter 3 復習	学習内容を再確認し、課題を見つけ取り組む。
		13th	Chapter 5 Part 1, 2	今日までのアイスクリームの歴史について書かれた英文が理解できる。 SVO to do・過去分詞後置修飾を理解し、活用する。
		14th	Chapter 5 復習	学習内容を再確認し、課題を見つけ取り組む。
		15th	前期末試験	現時点の英語力を確認する。
		16th	前期末試験の返却と解説・夏休みの課題説明	前期末試験までの振り返りと今後の学習目標を立てる。
2nd Semester r	3rd Quarter	1st	夏休み課題テスト	課題実施の成果をテストにより確認する。
		2nd	Chapter 7 Part 1, 2	環境問題について書かれた英文が理解できる。 過去完了形・関係代名詞whatを理解し、活用する。
		3rd	Chapter 7 Part 3, 4	環境問題について書かれた英文が理解できる。 SVOC（do）・助動詞の受け身を理解し、活用する。
		4th	Chapter 7 復習	学習内容を再確認し、課題を見つけ取り組む。
		5th	Chapter 8 Part 1, 2	書道を用いた英語と日本語の文字文化について考える。 分詞構文・関係副詞whenを理解し、活用する。
		6th	Chapter 8 Part 3, 4	書道を用いた英語と日本語の文字文化について考える。 強調構文・SVOC（done）を理解し、活用する。
		7th	Chapter 8 復習	学習内容を再確認し、課題を見つけ取り組む。
		8th	後期中間試験	現時点の英語力を確認する。
	4th Quarter	9th	後期中間試験返却と解説	後期中間試験までの振り返りと今後の学習目標を立てる。
		10th	Chapter 9 Part 1, 2（冬休み課題，詳細は別途指示する）	宇宙について書かれた英文を理解する。 as if ～・仮定法過去を理解し、活用する。
		11th	冬休み課題テスト	課題実施の成果をテストにより確認する。
		12th	Chapter 9 Part 3, 4	宇宙について書かれた英文を理解する。関係副詞why・仮定法過去完了を理解し、活用する。
		13th	Chapter 10 Part 1, 2	手塚治虫の人生哲学について書かれた英文が理解できる。 過去完了の受け身・関係副詞howを理解し、活用する。

		14th	Chapter 10 Part 3, 4		手塚治虫の人生哲学について書かれた英文が理解できる。 関係副詞where・同格thatを理解し、活用する。		
		15th	後期末試験		現時点の英語力を確認する。		
		16th	後期末試験の返却と解説		1年間の振り返りと今後の学習目標を立てる。		
Evaluation Method and Weight (%)							
	試験	発表	自己評価	態度	課題	小テスト	Total
Subtotal	60	0	5	0	25	10	100
基礎的能力	50	0	5	0	25	10	90
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10